

あなたの骨、元気ですか？

—骨密度測定で「骨粗しょう症」の早期発見を—



令和7年10月17日発行

放射線技術科

骨粗しょう症とは

加齢とともに、骨の量（骨量）が減って骨が弱くなり、骨折しやすくなる病気です。骨がもろくなると、つまずいて手やひじをついた、くしゃみをしたなどわずかな衝撃で骨折の可能性があります。また、大腿骨や背骨が骨折すると歩行が困難になったり、寝たきりになることもすくなくありません。女性の方が骨粗しょう症になりやすく、50代で10人に1人、70才以上では半数の方が骨粗しょう症になるといわれています。



○背中が曲がってきた。



○身長が縮んできた。

気になる症状 ありませんか？



○重いものを持つと、腰が痛む。



○立ち上がる時に、腰が痛む。

骨粗しょう症の検査

骨粗しょう症を調べる検査に、「骨密度測定装置」を使用します。

骨密度とは骨の強さを判定するための指標で、骨の中にカルシウムなどのミネラルがどの程度あるかを測定し、若い人の骨密度の平均値と比べて自分の骨密度が何%であるかで表されます。



当院で採用している
「骨密度測定装置」

骨密度検査は、骨の健康を知る上で重要な手がかりです。特に女性の方は症状が無くても、40歳以上になったら定期的に骨密度を測ることをお勧めします。 ※当院では当日・予約なしで検査可能です